

感性信じて新天地へ

金沢市出身のサウンドアーティストKyoka(きょうか)さんが、四月にドイツでCDデビューを果たす。すでに日本を離れ、ドイツへと旅立った。渡航直前の十一日、CDに参加した世界的アーティスト、マイク・ワットさんのツアーに同行して金沢を訪れたKyokaさんは「わくわくするような音楽を発信していきたい」と新天地での活躍を誓った。

「古いものも新しいものもすべて受け入れる街。いるだけで楽しくて、魅力的だと思った」日本をはじめ、アメリカやヨーロッパでも音楽活動を続けてきたKyokaさんが、本格デビューの地にドイツを選んだ理由は、ベルリンの街に引かれたからだった。

サウンドアーティスト
Kyokaさん (金沢市出身)



ドイツでCDデビューするKyokaさん(右)とCD製作に参加したワットさん—金沢市内

4月にドイツでCDデビュー

わき起こってきた。子どものころにピアノ、フルート、三味線を習っていたが、作詞、作曲を始めたのは、東京の大学へ進学してバンドを始めからだ。大学四年でスペインに短期留学した時に、現地のライブハウスで自分の音楽を披露したことがヨーロッパで活動するきっかけとなった。

「聞いたことない音」

「積極的に売り込むのは苦手。CDデビューを意識した

ことはなく、好きな音を作って、日本でも海外でも、聴かせる場があれば出掛けていただけだ。それがいつの間にかヨーロッパのラジオ局で曲がかかるようになり、ドイツのレコード会社からのデビューにつながった。

Kyokaさんの音作りは、パソコンを使った打ち込みが基本だ。時には生演奏を加えて編集する。歌詞は日本語、英語さまざまで、歌詞がない曲もある。

ライブでは歌や演奏もするが、肩書きは「サウンドアーティスト」だ。デビューCD「UFUNFUFUNFUFU」には、ロックバンド「ストウージズ」などで活躍するワットさんがベースで参加した。昨年七月に東京でレコーディングし、Kyokaさんが編集した。音を聴いたワットさんは、想像以上の出来栄に驚いたという。「Kyokaは今までに聴いたことがない音を作る。一緒にやると自分も新しい挑戦ができる」と絶賛する。

アートの故郷に誇り

故郷金沢の存在は、音楽活動に少なからず影響しているという。「金沢はアートの街。そういう意味では、ヨーロッパの都市と似ている部分もある」。ドイツへ旅立つことが決まって、金沢に生まれたことを誇りに思う気持ちが強まった。

ドイツでの生活に不安がないわけではないが、「どれくらい自分の音楽で人を沸かせることができるのか楽しみ」という気持ちの方が大きい。Kyokaさんは「自分の感性を信じて音を作っていきたい」と力強く語り、期待に胸を膨らませて旅立った。

ひと
彩々